

国土の基本的な地理情報に関する調査作業

実施期間	平成 17 年度		
測図部調査資料課	亀井 福次	望月 正	
	矢沢 勇	中野 正広	

1. はじめに

国土地理院が整備する地理情報は、行政目的に限らず個人や企業等においても広く利用されている。また、近年、IT 技術の発達と GIS の取り組みの広がりにより、地理情報の利用が多様化してきており、こうした社会の変化や利用者のニーズに対応した地理情報の整備が求められている。

本調査作業は、国土地理院が作成している地図に採用すべき新たな地理情報等、国土の基本的な地理情報の整備について調査し、一般利用者及び専門家の意見を聴取し、とりまとめることを目的として実施した。

2. 調査作業内容

2. 1 一般利用者の意見聴取

国土地理院が作成している地図に採用すべき新たな地理情報に関する、一般利用者の意見聴取として、新しい地図記号(風力発電用風車と老人ホーム)のデザインを全国の小中学生を対象に公募した。公募に際しては、ホームページや各種機関誌、雑誌など通して、これを周知した。

2. 2 外部検討委員会の設置及び運営

公募した結果についての意見を聴取するために、地図、地理教育、デザイン、あるいは記号化対象施設の専門家からなる、外部検討委員会(名称:「新しい地図記号に関する検討委員会」)を設置して、これを随時開催した。また、同外部検討委員会において出された意見を整理した。

2. 3 既存地図記号に関する調査及び整理

既存の地図記号に関する調査及び整理として、1) 諸外国の公的機関が発行している地形図等の記号調査、2) 地方公共団体の作成している地図等の記号調査、3) 国内の民間団体が作成している地図等の記号調査を実施した。この際、地図に記載すべき新たな地図記号を考慮して、建物記号及び目標物の記号を重点的に整理した。

3. 得られた成果

3. 1 一般利用者の意見聴取

デザインの応募総数は、118,085 点と 10 万点を超える結果となった。種類別では、風力発電用風車が 61,044 点、老人ホームが 57,041 点であった。応募校数は、海外日本人学校を含めて 2,022 校であり、47 都道府県のすべての地域から応募があったことから、全国的な広がりとなった。

応募されたデザインの特徴として、風力発電用風車は、羽根をイメージしたデザインが圧倒的に多く、老人ホームについては、優しさやあたたかさを強調したものが多くよせられた。

3. 2 外部検討委員会の設置及び運営

委員会は、地図学の学識経験者、地理・地図教育関係者、デザイン専門家、広報の専門家、高齢者福祉の専門家、風力発電施設の専門家、国土地理院担当部の7名で構成した。委員会においては、2万5千分1地形図に採用すべき新たな地理情報に関する意見聴取、公募デザインに関する意見聴取、優秀なデザインの選定等を実施し、出された意見については整理をおこなった。

3. 3 既存地図記号に関する調査及び整理

収集した地図は表-1のとおりである。これらについて建物記号及び目標物の記号を整理した。

表-1

大分類項目	団体(国)数	種類数	特徴等
諸外国の公的機関作成	15	21	日本より記号の数・種類とも少ない。
地方公共団体作成	18	21	地方の個性を出した主題図的な地図記号が多い。
国内民間団体作成	12	21	色彩のある記号が多い。

4. 結論

今回の調査作業において公募した風力発電用風車と老人ホームは、国内で作成されている地図には、ほとんど記号表示されていない。特に老人ホームは諸外国においても記号化されていない。近年、環境に優しい風力発電施設の増加や高齢化社会の進展による老人ホームの建設が進められていることから、記号の新設は多くのマスコミにも取り上げられたように社会的なニーズにあわせたタイムリーな内容であった。

また、公募対象を小・中学生とし、地図に関心を深めてもらうことを期待した結果、応募数が非常に多かったことや学校における組織的な取り組みもおこなわれたことなど、地図教育の分野で大きな関心を喚起した。

以上のことから、地図記号の公募は、地図教育分野における有効性が高く話題性もある。今後の地図記号の新設及び変更等にあたっては公募方式を検討する必要があると考える。